

第1回 新しい十日町市立中学校をつくる検討会(仮)会議録(概要)

- 1 日時 令和7年8月28日(木)午後7時00分～午後8時40分
- 2 会場 千手中央コミュニティセンター 千年の森ホール
- 3 出席者
 - (1) 委員 46名
 - (2) 事務局 12名 渡辺教育長、滝沢教育文化部長、鈴木教育文化部副参事、渡邊学校教育課長、長谷川指導管理主事、徳井指導主事、平野指導主事、玉村教育総務課長、中川教育総務課長補佐、星野教育総務課庶務係長、田畑教育総務課教育施設係長

- 4 会議概要
 - (1) 教育長あいさつ(渡辺教育長)
 - (2) 委嘱状の交付
代表で、名簿1番の雲尾周様に委嘱状を交付
 - (3) 委員紹介
委員名簿による
 - (4) 検討会の名称決定
委員からの募集により、22名の名称案が提出された。投票を集計した結果、最も得点が高かった、16番の「十日町“みんなの学校”プロジェクト」を会の名称とする。この名称は、まつだい地域振興会から推薦された高橋真梨子さんから考えていただいた。
 - (5) 座長及び副座長の選任
座長について、委員名簿1番、新潟大学教職大学院、雲尾周様、副座長について、委員名簿49番、十日町市地域クラブ活動推進委員会の庭野明氏様という事務局案を拍手をもって了承された。
 - (6) 正副座長あいさつ(雲尾周様、庭野明氏様)
 - (7) 議事
以下のとおり審議が行われた。

発言者	発言概要
① 新しい十日町市立中学校をつくる検討会設置要綱について	
事務局	(資料に基づき説明) (質問等なし)
② 検討会の進め方	
事務局	(資料に基づき説明)
委員	今後の検討会を、オンラインで参加することはできないか。例えば、子どもが体調不良のため会場に来ることができなくても、会議の内容を聞いたり、一部参加したりできればと考える。会議を欠席してしまうと大変もったいないことだと思っており、環境を整えていただくことはできないか。
事務局	システム的な問題と、グループワークが中心になってくるので、どのようなやり方ができるのか検討が必要である。
委員	会議の公開、非公開について、去る6月5日の十日町市地域自治組織連絡

協議会において、委員個人が気兼ねなく発言できるように、原則非公開にしてほしいという意見があった。原則非公開が地域自治組織連絡協議会の意見である。

座長 検討会の会議の公開、非公開の取扱いについては、事務局の説明と今ほどの意見のとおり、2回目以降の会議を非公開とすることでよいか。
(異議なし)

③ 検討会での検討事項及び会議日程等

事務局 (資料に基づき説明)

委員 先進地の視察について、こういう学校を視察したい、こういう学校の先生の話を知りたい、という話を聞き取りしてほしい。全国ではどんな魅力的な学校があるのかということを調べたので、そのような声を聞いていただき検討してほしい。

事務局 事務局でも考えている。日程の問題、人数的な問題もある。意見をいただいたうえで検討し判断したいと思う。

委員 今後の会議の日程を見ると、この検討会はグループワークが中心である。私は保護者代表として来ているが、家族が子どもの面倒を見ることができないとき、会場に子どもを連れてきてもよいか。もしくは、子どもが会議をしている間、待っている場所をつくっていただけないか。

事務局 事前に何人ぐらい来るのか確認したうえで、部屋の確保などしたいと思う。

④ グループワークの進め方

事務局 (資料に基づき説明)

委員 グループの構成メンバー、班分けは、どのような基準で行うのか。テーマごとメンバーを変えるのか、あるいは、ある程度固定するのか、教えてほしい。

事務局 参加状況を見ながら考えていかなければならない。地域住民の方、保護者の方、各団体の方、それぞれ各班に割り振っていくやり方がよいと考える。保護者だけ、地域住民だけでまとまるということは避けて、それぞれがみんな等しく入り込むようなグループ分けにしたいと考える。グループについては、あまり1回目と2回目で意見が違ふ人と話をするというのもどうかと思っており、ある程度何回かは固定したほうがよいと考えている。途中でメンバーを入れ替えるということも少し考えている。

⑤ 配布資料の説明及び質疑

事務局 (資料に基づき説明)

委員 子育てをしている中、上の子と下の子の教育環境は変わってきている。そのような中で、30年後の学校の在り方は想像がつかない。先進的な新しいAI、タブレットの活用もよいが、子どもが文字・漢字・文章を書けなくなっていると聞いた。人が少なくなっていく中で、人間関係とか社会性などがすごく大切になっていくと感じている。先ほど先進地視察の話があったが、意見交換の前に先進的な教育で注目を浴びていたり、実績を出していたりする学校の情報を私たちに提供してほしい。

事務局 タブレットでも学べることも学びの一つのツールである。書くことと両方進めなければいけないのが学校教育だと思う。学校現場としては両立できるような教育の仕方をする必要がある。先進地を見るということも確かに大事ではある。資料をまとめて提供したいと思う。

委員 91 ページの市外に通学する生徒の人数が 169 名とあり、多いと感じた。今後学校の在り方を考えていくうえで、子どもが何であえて市外に出て学んでいるのか、ヒアリングやアンケートを取ることも必要だと思う。その方たちの意見を聞くことで、今後十日町市で求められる教育がどのようなものであるのかということが部分的にも見えてくると思う。ヒアリングやアンケートを検討していただきたい。もう一つ、1 ページに小中一貫教育の推進とあるが、小中の連携を深めていくというような方向性と、中学校が地域からなくなっていくかもしれないという矛盾が生まれないようにするために、どのようなスムーズな移行を考えているのか教えてほしい。

事務局 91 ページの市外に通学する子ども 169 名というのは、そもそも教育カリキュラムが違い、そういうところで学びたい子どもが市外の学校を選んでいると思う。小中一貫教育の仕組みは、必ずしも一つの建屋の中に小学校、中学校が並立なわけではなく、例えば小学校と中学校の連携型の小中一貫の形も含めるわけであり、その連携をどういう形で取っていくのかということはこれからの議論であり、どういう形で学校が配置されるかということによっても変わってくると思う。小学校と中学校のつながりというのはどういう形であれ大事なことであり、その形に合った内容の小中一貫教育を進めていく必要があると思う。

委員 検討会は、大人が考える、話し合うという会である。保護者であったとしても、結局大人の考えである。現時点で小学校や中学校に通っている子どもたちは、現状を今どのように考えているのか、未来の中学校がどうなってほしいのかを質問すれば、こうなってほしいという考えが多分あると思う。検討会の中で、子どもたちの声も少し反映させてもらえるよう検討してほしい。

事務局 今、その手法を検討しているところである。

(8) その他

① 次回会議の開催日・内容等

次回の日程及び内容について説明

② その他

終了時間厳守のお願い

意見・感想については、9月14日までに提出

(9) 閉会あいさつ（教育文化部長）